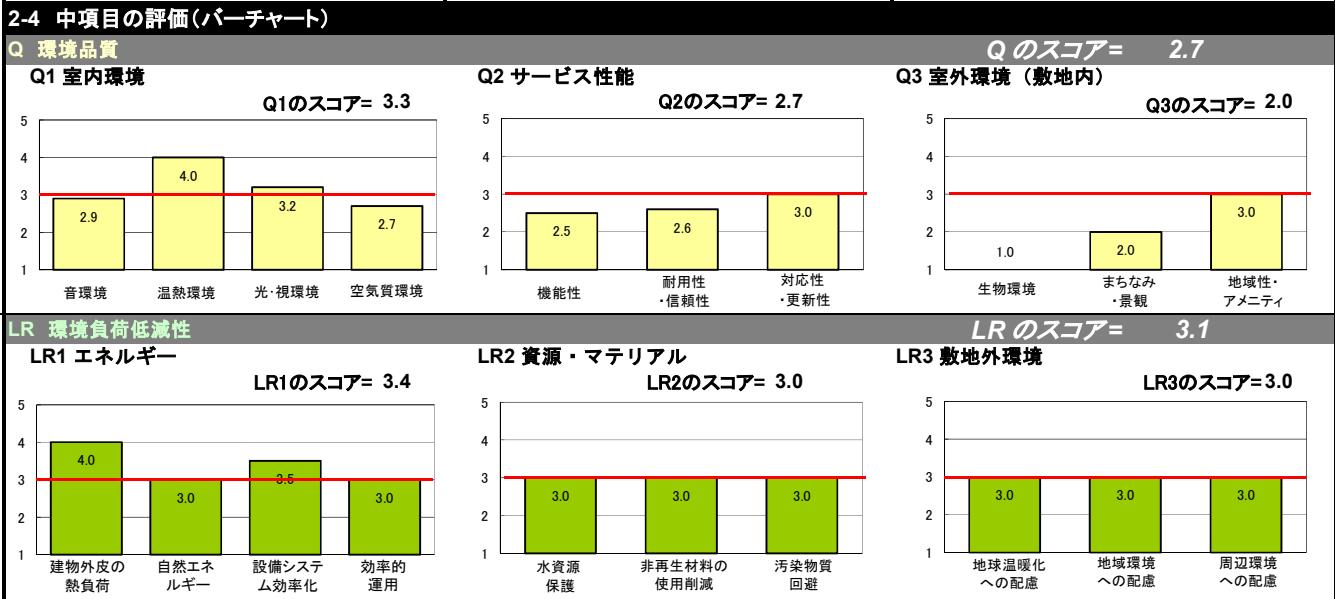
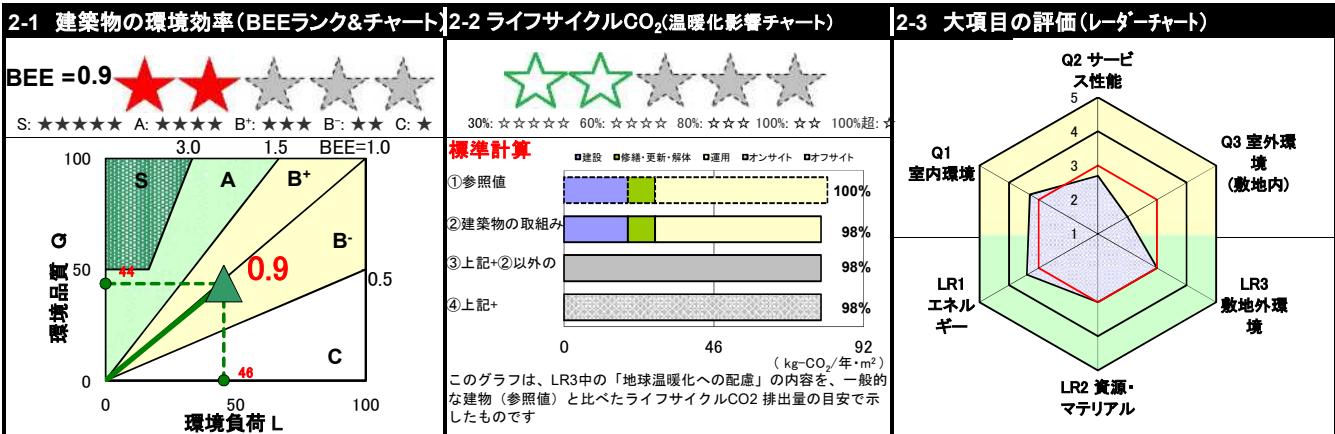


## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22030

建築物名称	(仮称)日進町マンション新築工事
建築主	ステラ株式会社 代表取締役 植田 元
建築物の所在地	川崎市川崎区日進町26番22の一部
設計者氏名、建築士事務所名	田中 太 朝日建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,097.49m <sup>2</sup>
用途	共同住宅・店舗
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上10階
工事完了予定年月	令和6年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日進町マンション 新築工事	階数	地上10F
建設地	川崎市川崎区日進町26番22の一部	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	158人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年9月8日
敷地面積	544 m <sup>2</sup>	作成者	田中 太
建築面積	253 m <sup>2</sup>	確認日	2022年9月22日
延床面積	2,097 m <sup>2</sup>	確認者	田中 太



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		Gの平均点	2.4
<b>緑の保全・回復(G)</b>				
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合する計画とした。 植栽による良好な景観を形成し、建物高さも近隣の高さに調和させた。 緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>				Wの平均点 3.0
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 星光利用設備 3.2 3.2.1 星光制御	二重サッシとし、断熱性に配慮した。 星光利用設備は無し カーテンレールと庇(バルコニー)を設置しグレア対策とした		5.0/6.4	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合する計画とした。 緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級4を確保 住戸数45戸のうち36戸が角部屋であり、通風のしやすい住戸の配置とした。 BEI 0.95		3.5/5.0	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	主要水栓に節水コマなどを取り付け 鉄筋コンクリート造にて計画 ODP=0冷媒を使用		2.8/4.7	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>				Rの平均点 2.8
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	品確法等級1相当で計画		0.2/0.5	2.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	主要水栓に節水コマなどを取り付け 鉄筋コンクリート造にて計画		2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の駐車場を設置		0.3/0.4	3.3
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>				Hの平均点 2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針に適合する計画とした。 緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級4を確保 住戸数45戸のうち36戸が角部屋であり、通風のしやすい住戸の配置とした。 BEI 0.95		3.5/5.0	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	緑地を設けることで地表面の気温上昇を抑制した。		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

2.8

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
<b>建設段階</b>				
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 車体材料の耐用年数	品確法等級1相当で計画		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用	既存建築物は無しのため利用不可 構造躯体ではリサイクル材の使用無し		0.7/1.2	3.0
<b>運用時のエネルギー</b>				
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱等級3を確保 住戸数45戸のうち36戸が角部屋であり、通風のしやすい住戸の配置とした BEI 0.95		3.5/5.0	3.5

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

**CASBEE-川崎2017年版**  
**(仮称)日進町マンション 新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

22030

スコアシート 基本設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>												<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>								0.40		-		<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>						-	0.15	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.9</b>		
<b>1.1 室内騒音レベル</b>						-	-	<b>3.0</b>	0.50			
<b>1.2 遮音</b>						-	-	<b>2.8</b>	0.50			
1 開口部遮音性能						-	-	<b>3.0</b>	0.30			
2 界壁遮音性能						3.0	-	<b>3.0</b>	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	<b>3.0</b>	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	<b>2.0</b>	0.20			
<b>1.3 吸音</b>						1.0	-	<b>3.0</b>	-			
<b>2 溫熱環境</b>						-	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>		
<b>2.1 室温制御</b>						-	-	<b>4.0</b>	1.00			
1 室温						-	-	-	-			
2 外皮性能						-	-	<b>4.0</b>	1.00			
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>						-	-	-	-			
<b>2.3 空調方式</b>						-	-	-	-			
<b>3 光・視環境</b>						-	0.25	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.2</b>		
<b>3.1 昼光利用</b>						-	-	<b>2.4</b>	0.50			
1 昼光率						-	-	<b>3.0</b>	0.50			
2 方位別開口						3.0	-	<b>1.0</b>	0.30			
3 昼光利用設備						-	-	<b>3.0</b>	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>						-	-	<b>4.0</b>	0.50			
1 昼光制御						-	-	<b>4.0</b>	1.00			
<b>3.3 照度</b>						-	-	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>						-	-	-	-			
<b>4 空気質環境</b>						-	0.25	<b>2.7</b>	1.00	<b>2.7</b>		
<b>4.1 発生源対策</b>						-	-	<b>3.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質						-	-	<b>3.0</b>	1.00			
<b>4.2 換気</b>						-	-	<b>2.3</b>	0.38			
1 換気量						3.0	-	<b>3.0</b>	0.33			
2 自然換気性能						-	-	<b>1.0</b>	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	-	<b>3.0</b>	0.33			
<b>4.3 運用管理</b>						-	-	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-			
2 喫煙の制御						-	-	-	-			

Q2 サービス性能								-	0.30	-	-	2.7	
1 機能性								-	2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ								3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性								3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応								3.0	-	3.0	1.00		
3 パリアフリー計画								3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性								1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観								1.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース								3.0	-	-	-		
3 内装計画								1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理								3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計								3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保								3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性								2.6	0.30	-	-	2.6	
2.1 耐震・免震・制震・制振								3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能								3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				R	R	R	R	2.6	0.30	-	-		
1 車体材料の耐用年数				R	R	R	R	3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				R	R	R	R	2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				R	R	R	R	3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R	R	R	R	3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R	R	R	R	3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				R	R	R	R	2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性								1.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備								3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備								1.0	0.20	-	-		
3 電気設備								1.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法								3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備								1.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性								3.0	0.30	3.0	1.00	3.0	
3.1 空間のゆとり								-	-	3.0	0.50		
1 階高のゆとり								1.0	-	3.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ								1.0	-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり								3.0	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性								3.0	1.00	-	-		
1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-		
2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-		
3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-		
4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-		
6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	2.0	
1 生物環境の保全と創出	G	W	H					1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	G							2.0	0.40	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮								3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W	H					3.0	0.50	-	-		

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.1
LR1 エネルギー					-	0.40	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	W	H			4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用	W	H			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W	H	[BEI][BElm] = 0.95		3.5	0.50	-	3.5
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	-	-	
4.1 モニタリング	W	H			3.0	-	-	
4.2 運用管理体制	W	H			3.0	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング	W	H			3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W	H			3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	3.0
1 水資源保護	W	R			3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.60	-	3.0
2.1 材料使用量の削減	W	R			3.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	一		3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			3.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R			3.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	W				3.0	0.70	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	W				3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G W	H			3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減		R			3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制		R			3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制		R			3.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		R			3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					3.0	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70	-	
2 基光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	